

『医療・保険・福祉・市民の交流の場』

# 大村市在宅ケアセミナーだより

第144号 令和元年5月 発行元：〒856-0832 長崎県大村市本町458番地2 中心市街地複合ビル

(一法) 大村市医師会 大村市在宅ケアセミナー広報部 TEL: 0957-54-0151

ホームページ: <http://www.nagasaki.med.or.jp/oomura/caresemi/index.html>

令和元年度メインテーマ(案)『市民と繋がる、市民を支える架け橋となる~地域資源として出来ること~』

## 第161回 大村市在宅ケアセミナーのご案内

日時: 令和元年5月16日(木) 18:45~20:30

場所: 大村市医師会館 講堂 (協和町779)



①総会: 平成30年度決算報告

令和元年度 事業計画(案)、予算(案)について

②講演: 『医療と福祉のお金の話』

講師: ファイナンシャルプランナー、社会福祉士、精神保健福祉士



宮崎翔太様

※駐車場に限りがございますので、乗り合させてご参加下さい



### 駐車場のお知らせ

医師会の駐車場は  
玄関前の駐車場と裏の駐車場のみです。  
よろしくお願ひいたします。



新年度になりました！

納入をお願い致します。

- セミナー受講の際は、会員証を受付で必ずご提示下さい。(平成30年度 会員359名)
- 大村市医師会のホームページにてセミナーダよりを掲載しております。便りの郵送不要の方はご連絡下さい。

お申し込みの際に、  
メールアドレスを  
ご記入して頂くと  
ご案内が届きます！  
ぜひ メールで♪



# 第160回大村市在宅ケアセミナー・市民公開講座

日 時：平成31年3月10日（日）14:00～15:30

場 所：大村市コミュニティセンター 大会議室

内 容：劇『そいでよか！ そいがよかばい！』

自分の最期は自分で決めよう

“あなた”や“あなたの大切な人”的

もしもの時に備えて、一緒に考えてみませんか？

参加者：400名超え

## ACPとは…

人生の最終段階（終末期）を迎えたときの医療の選択について事前に意思表示しておく文書に“リビングウィル（LW）”がありますが、周囲との十分な話し合いがなされず作成された場合は本人の事前指示が尊重されないことも多く、LW作成には医師や医療従事者から十分な説明を受け、ご家族を含めた話し合いを繰り返し、よりよい選択をすることが望ましいとされています。“もしも”的に自身が受けたい医療などを、前もって話し合う自発的なプロセスを「事前医療・ケア計画（アドバンス・ケア・プランニング/ACP）」といいます。周りの人に自分の生き方を理解してもらう話し合いです。

たくさんのご参加本当にありがとうございました。

市民の方々へACPを普及していきましょう！！！



## ご感想

たくさんのご感想をいただきました。

- ACPの考え方方が分かり、良かった。
- 共感しました。自分や母親にも人生ノート勧めてみたいと思いました。
- 今、その時です。家族と話し合い母を送りたいと思います。考える時間となりました。
- とても良い企画でした。大村市民に広がっていくきっかけだと思います。
- ぜひ、実行したい。
- 死を前に考えなくては・・と心が動かされました。父の死を体験し、自分の死についても何となく考えてはいたものの今日のこのセミナーではっきり先が見えた気がします。ありがとうございました。
- 母が78歳となり一緒に考えていきたいと思いました。普段口頭で話をしていますが、より具体的な内容で話せそうです。
- 文字にして記録しておく必要性を再確認しました。日常会話の中で聞いていることを記録しておくことは大事だと思った。
- 元気なうちに話したりかいたりすることが大事だと思いました。
- 今回の講座でACPの大切さがわかりました。私がどの立場になるかは分かりませんが準備をすることの大切さを教わりました。ありがとうございました。
- 自分の親の最期の話をしてみようと思えた。
- 私も父を最近なくしたばかりです。治療についてもっと早く知りたかったです。
- 人生ノートについて、かかりつけ医師からもっと担当患者に伝え勧めてほしい。
- 楽しく観させて頂き又考えさせられました。ありがとうございました。
- 本日参加してよかったです。3つのケースとも身近にある設定で関心をもって拝見しました。何より皆様の演技が素晴らしいあつという間の1時間半でした。お疲れさまでした。
- 自分自身の最期についてキチンと向き合おうと思います。
- これから真面目に考えて記入したいと思います。
- 今日まで素人の皆さん練習が大変だったこと思います。アドリブ入りで分かりやすい構成、内容でした。人生ノートの活用、末期がん、認知症例、全て今は身近な事例です。人生最期を考える良い機会になりました。救急も安易に呼ばなくなつて必要な人に救急医療もできるようになるといいのではとも思いました。ありがとうございました。
- とても良かった。またやってください。次回は、妻と子供を連れてきます。